

【平成30年度矢口東小学校授業改善推進プラン】

算数科における平成29年度の授業改善推進プランの検証

取組における成果と課題

- ・児童が自分の考えに自信を持つよう、発表場面や交流場面を作ってきたことで、算数への関心・意欲の高まりが調査結果に反映している。学習への意欲をより一層高めていくために、解くことが楽しい、できることが楽しい、分かることが楽しい授業作りを進めていく。
- ・学力調査では数学的な考え方が、調査対象学年全てにおいて目標値を上回っている。低学年から継続して自分の考えをかく時間や友達の影響から学ぶ時間を設けたり、具体物操作・半具体物操作や図などを用いて考え方を表現する時間を設けたりして、数学的な考え方を働かせる経験を今後も積んでいく。
- ・矢東タイムでの計算練習や補習学習の対象児童に対して計算問題を中心とした課題に繰り返し取り組ませることにより、基礎的な技能面での成長がみられた。今後も既習の学習を繰り返し確認し、知識面・技能面での確実な定着を目指す。

算数科における調査結果の分析（4・5・6年生の調査結果をもとに）

	関心・意欲	数学的な考え方	技能	知識・理解
観点別結果の分析	・4、6年生は目標値を上回った。どの学年の児童も意欲的に取り組もうとしているので、できる・分かる楽しさや、解くことが楽しいと思える授業展開を工夫し、達成感を感じられる授業を心がける。	・全学年、目標値を上回っている。既習事項を活かして問題解決をし、思考力を高める授業を継続して行う。また、問題を把握する場면을重視し、低学年から自分の考えを図や式などで表現することを継続的に指導する。	・全学年、目標値を上回っている。全体的に一定の基礎計算力は育っているといえる。4年生のかけ算・わり算、5年生の角の大きさ、6年生の百分率とグラフなど、個々に課題が見られるものについて、定着を図る必要がある。	・4、6年生は目標値を上回った。定着が不十分で活用できない児童も見られるので、学習内容に関連させて反復学習していく必要がある。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 見通しをもって粘り強く取り組めるように、主体的な学びの実現を目指す。
→学習のねらいを明確にし、学習を通して達成したいゴールに向けての見通しをもたせ、達成までの自立した学びができるような授業展開を進めていく。
- 2 自らの考えを広げ、深めるために、対話的な学びの実現を目指す。
→児童の実態に応じてペアやグループ、全体で検討する場面を作り、友達の影響に触れ、自分とは異なる考え方について理解を深めることで、学びを自分事として捉え、自分自身の考えを広げ、深めさせていく。
- 3 できなかったことができるように、できたことがさらに使えるようにするために、深い学びの実現を目指す。
→まずひとつ自分の考えを出し、できたら他にも考え方はないか考え、それらの中でどれが一番よいか判断したり、自分の学びを振り返ったりすることを習慣化させる。

算数科の具体的授業改善策

○算数に対する意欲を育み、数学的に考える力を高めるために

- ・既習事項を活用して、自力で問題解決ができる手立てや工夫を授業に取り入れて実践する。
- ・発達段階に応じて、ドット図や線分図、数直線などを使って、自分の考えを図で表現できるよう指導する。
- ・問題解決の際に、具体物、図、数、式、表、グラフを用いて表現し、相互の関連を図るとともに、振り返りの場面を設け、問題場面に立ち返る機会を設ける。
- ・自力解決場面で自分の考えを表現できるよう、実態に応じた手立てを考えるとともに、検討場面や振り返り場面で友達の考えを学べる場面を設ける。

○学習内容を理解し、確かな学力の定着を図るために

- ・低学年を中心に、算数ブロックの操作等を活用して、十進位取り記数法の理解を確実にする。
- ・量感が身につくよう、実際にはかる・任意単位を敷き詰めて数えるなどの体験を積ませる。
- ・平面図形の性質を体験的に理解できるようにするために、作図や実際に操作させる活動を行ったり、表にまとめて整理したりする。
- ・立体図形は、性質を体験的に理解できるようにするために、実物を切り開いて展開図にしたり、それを組み立てて辺や頂点の位置関係を確認めたりするなどの活動を取り入れる。
- ・東京ベーシックドリルやステップ学習プリントから、児童の実態に応じて家庭学習プリントを提供する。